

授業改善推進プラン〈技術〉

西東京市立ひばりが丘中学校

1 指導目標

・コンピュータやソフトウェア等情報機器の基本的な取り扱いと利用の仕方やものづくりの技術を習得させることを通して、生活を工夫し創造する能力を育成する。

2 平成26年度 1学期における考察と課題

| 学 年 | 考察 | 課題 |
|------|--|--|
| 1 学年 | 製作に対して積極的に取り組むことができる。 自ら課題を見つけることがむずかしい生徒がいる。 | 自らを見つめなおし、課題を見つける能力を身に付けさせること。 |
| 2 学年 | 実習については積極的に取り組む生徒が多い。落ち着いて授業を受けようという雰囲気がある。自分の考えを発表したり、考察する力が低い。 | 考察能力が低い。自らの考えを発表しようとする意欲を高めさせること。 |
| 3 学年 | コンピュータに慣れていない生徒も積極的に取り組んでいる。しかし、授業時数が少ないので学習内容が定着しにくい。 | 学習内容が定着しにくい。 実習を踏まえながらの操作の確認をする時間の確保が課題である。 |
| 全学年 | 作品を作ることが目的になってしまい、そこから自分の生活につなげることが難しい。 | 作品作りを通して、さらに実生活に役立てる視点を持たせることが課題である。 |

3 平成26年度 2学期以降へ向けての改善のポイント

| 学 年 | 改善のポイント |
|------|--|
| 1 学年 | 課題をみつける視点をもたせるための発問を工夫する。個別に指導する時間を作るようにする。計画を立てる時間を十分に確保し、見直しをもたせる。 |
| 2 学年 | 実験や作品作りの中で、毎回の授業で自分を振り返る時間をしっかりとる。グループでの話し合いなどを取り入れ、自分の考えを伝える機会を増やす。 |
| 3 学年 | 授業の中で振り返りの時間や、習得したことの確認を行う。理解しやすいプリントなどの教材作りを行う。 効率よく実習が進められるように、説明を自分でまとめる時間を作る。 |
| 全学年 | 作品を作る前に実生活を踏まえて工夫できる点を考えさせたり、作品を作った後に実生活ではどこに生かされるのかを考えさせたりする。 |

4 評価の工夫

| 観点 | 観点の項目 | 評価内容 |
|-----------------|--|---|
| 生活や技術への関心・意欲・態度 | 生活や技術に対して関心を持ち意欲的に取り組んでいるか。また、授業や実習時の態度が良好であるかなどを評価する。 | ・自己評価 ・提出物 ・観察 ・グループでの相互評価 ・その他 |
| 生活を工夫し創造する能力 | 生活をより豊かなものにするために、進んで工夫し、創造する能力が身に付いているかを評価する。 | ・作業等の観察 ・プリント、ノート等 ・作品 ・その他 |
| 生活の技能 | 生活に必要な技術・技能が身についているかを評価する。 | ・実技 ・観察 ・作品 ・その他 |
| 生活や技術についての知識・理解 | 生活に必要な知識を身に付け理解しているかを評価する。 | ・小テスト ・定期テスト |